

I 前の節の「あらゆる点において…成長する」を味わいたいと思います。キリスト者は、あらゆる点において、均整のとれた成長＝主の品性に似る必要がある。知性、考え方、識別力の成長と心、気持ち、暖かさの成長。聖書、真理を深く知り続ける事と生活、行動が主の愛と聖さに変えられて行く。主の真理を深く理解すれば、心も感動し豊かになる。分を超えた愛ではなく、分をわきまえた愛。

本日の16節で、4：1からの教会の一致に関する教えの終わりとなり、頂点に達する。7節以降、教会の本質を正しく理解させ、一致の原則が不可避と示された。私達は、霊的な子どものままではなく、個人的に成長するだけではなく、神が呼び集められた聖徒の集まりである教会として「私たちはみな」（：13）成長し続ける事＝ついには「キリストの満ち満ちた身丈にまで達する」（：13）事をビジョン、目標として祈る。

II 真に成長し続けるとは→三位一体の神ご自身を、命の御言葉を深く知り続ける。神を礼拝し、神に祈る事において成長し続ける。日常生活の中で御言葉を深く知り続け体験する事において。間違った教えに吹き回されたりせず、日頃から養われている御言葉と御聖霊により、判断力・識別力・自制・神の視点で物事を考え、捉えて行けるように祈る。主を愛し、主を間において互いに愛し合えるように祈る。愛をもって関係作りをし、真理、真実、福音を語れるように成長できるように祈る。

III 聖書の教える成長とは、私達がみな、キリストの体の各器官として成長し、教会のかしらなる主に結び合される事。主の体のすべての器官、私達一人一人が、常に主に合わせられ易いように整えられて行く。主の取り扱いを受け、神と人に仕える人に変えられる。主が何かを求められる時、主の御用に役立つ者に変えられる。

IV「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります」：16。

1.「キリストによって」。キリストご自身が、教会のかしら、要の石、命、力、成長の源泉、建て主。この主を離れては、教会はないし、あり得ない。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」（マタイ16：18）。「わたしを離れては、あなたがたは何もすること（実を結ぶ事）ができません」（ヨハネ15：5）。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」（Iコリント3：6）。※42年の伝道牧会の中で、人々の救い、成長は主の業と実感！主が教会の命。主との命の関係がなければ、そこに命はない。それ故に、活動、行事の前に祈りを積む事が欠かせない。祈り、神に抛り頼む時、御聖霊が働かれる。教会で一番大切にされるべき事は、主と私達の深い関係であり、命の御言葉の真理を保つ事であり、主と共に生きる事。主の臨在を感じながら。御聖霊の助けで、主との霊的なパイプをつまらせている罪を捨て、主と深くつながり、主の力、愛、命と霊的栄養が私達の内に注がれるように祈りたい。かしらなる主が働かれる！この方が、いつ働き、どのように働くかを決定なさる。このかしらなる主の命じられる事に役立つ、用いていただく事が私達の方であり、喜び。それ故に御心を祈り求めたい。

2. 「からだ全体は、一つ一つの部分がその分（4：7の「量り」と同じ原語）に応じて働く」。かしらである主から私達一人一人は、それぞれ違う賜物、能力、力量が与えられている。決して画一的ではない。皆違っている。それ故に、私達は皆、それぞれ、自分にはない賜物を持つ兄弟姉妹をねたむことなく、互いに尊敬し、互いに互いを必要としている事を認める。主が、それぞれに量り、分け与えられた賜物による奉仕は、主の教会を建て上げる。主が分け与えられた賜物を用いないまま再臨の主を迎える事はありませんように（マタイ25：24-30）。主が分け与えられた分を越えて、勝手にやり過ぎて、喜びを失い、他の人をさばいたり、主の教会の秩序、一致を壊す事はありませんように。「すべてのことを適切に、秩序をもって行いなさい」（Iコリント14：40）。いつも4つの分を識別して歩めるように祈りたい。私は、これをガラテヤ6：2と5節から教えられた。①自分が祈りつつ成すべき分②それぞれの人の分。そこには分を越えて干渉し過ぎない。③お互い協力して助け合う分④神の分、領域。

3. 「あらゆる節々を支えとして組み合わされ」。かしらなる主は、あらゆる結び目を通して、命や力を体のあらゆる部分、私達一人一人に送られる。それ故に、主としっかり結ばれている関係が最も大切。

4. 「しっかりと組み合わされ」。私達の自我は、角張っていて、きしみを生み出す。組み合わされにくい面がある。しかし、かしらなる主は、命の御言葉、日常生活の中の御訓練により、私達一人一人を整え続けられる。謙遜にされる。それぞれを相応しい位置に置かれる。主は私達一人一人をしっかりと組み合わされる。

5. 「結び合され」=一緒にする。結合する。一つに結びつける。「愛によって結び合わされ」（コロサイ2：2）。バラバラになり易い私達を主は、愛によって結び合される。共に心を合わせ祈り合う者とされる。

6. 「成長して」。かしらなる主の御姿に成長され続ける。7. 「愛のうちに建てられるのです」。愛は目標であり頂点。Iコリント13章。「愛がないなら、何の値打もありません。…愛がなければ、何の役にも立ちません」Iコリント13：2, 3。一致という問題で、愛ほど大切なものはない。愛は御霊の一致を保つ。かしらである主が愛に満ちておられるなら、かしらにつながる、霊的に結合している私達一人一人も愛に満ちることができる！主を抜きにした悪口の一致ではなく、一人一人が主に近づく時、お互いの距離も近づく真の一致。この主は永遠に愛のお方。この方は愛の故に、神であるのに、私達の救いの為に人となられた。クリスマスに。そして私達を心から愛しておられたので、私達の罪を負い、十字架で、私達の罪の刑罰を身代わりに受け、私達の罪を完全に償って下さった。何という愛、恵み！主の体に結び付けられた私達（教会）は、この方に合わせられて行く。そうすれば、私達は整えられ、「愛のうちに」共に成長して行く。「愛は神から出ているのです」Iヨハネ4：7。主が私達に与えて下さる「愛は寛容（気が長く、あきらめない、さばき合わない）であり、愛は親切（いつくしみ深い）です。また人をねたみません（人と比べない）。愛は自慢せず、高慢になりません（神と人々の祈りの支えを感謝する）。礼儀に反することをせず（エチケットを守る、マスク、手洗い等）、自分の利益を求めず（その人に真に益となるものを識別して与える）、苛立たず（感情に任せて相手を傷つけない）、人のした悪を心に留めず（根に持たず、主の愛で赦す）、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてを耐え、すべてを信じ（神が神の時に終息して下さる事を信じる）、すべてを望み（どんな試練の中でも神に希望を置く）、すべてを耐え忍びます（今の試練を祈りつつ乗り切る）。愛は決して絶えることはありません（神は変わらず私達を愛し続けて下さる）」Iコリント13：4-8